
ため息

colors

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ため息

【Nコード】

N8500C

【作者名】

colors

【あらすじ】

特に理由なんてないけれど、少し鬱な気分。そんな時に溢れ出るため息。

「はぁ・・・」

ため息が一つ、唇から零れ落ちた。

もう何回ついたか分からない。毎日毎日、気がつけばいつの間にかついでしまう。

机の上のノートに視線を落とす。しかし内容は頭に入らない。意味もなく自室を眺めてみる。なんとなく気だるい感じ。

「ため息をつくとき幸せが逃げる」そんな言葉が脳裏をかすめる。

幸せが逃げると言われても・・・ため息なんて無意識的なもの、つかないようにするのは難しい。つかないように常に意識すると疲れるし、疲れるとまた、ため息が・・・。なんて嫌なループ。

「はぁ・・・」

ほら、また一つ。口から滑り落ちていく。

別に、悩み事があるわけじゃない。特に成績が悪かったり、友達と仲が悪くなったわけでもない。

それでも、何故かついてしまう。

ふと、机の上の時計に目を見やる。黒い文字盤の上の銀色の針が動いている。チクタクチクタク。針が刻む音はリズムカル。秒針が一周して、やっと視線を外す。

「はぁ・・・」

うつかりついてしまっただけから、慌てて口を塞ぐ。

いくらなんでも、これはつき過ぎだろう。

まるで、呼吸するのと同じくらい当たり前のために息をついている。そんなの哀し過ぎるではないか。

気分転換するために、少し散歩に行くことにする。

外に出てみたけれど、特に行きたい所もない。

夜も更けているのであまり遠くにはいけない。とりあえず近所の公

園にでも行ってみることにする。

昼間はかなり暑かったが、日が暮れると急に冷え込んでくる。冷気が肌に心地良い。

公園は家からかなり近いのですぐ着いた。当たり前だがこんな時間には誰もいない。

だいが錆び付いているブランコに腰掛けて、空を見上げる。

晴れてはいるが星はあまり見えない。ぼんやりとしていて輪郭がはっきりしない月と、町の夜空でも見えるような明るい一等星がいくつか見えた。

昔見た田舎の空を思い浮かべる。

その時は夏で、天の川がはっきりと見えていてとても印象的だった。もう随分とあの空を見ていない。

「あつ」

突如、空を駆け抜けた流れ星。

いきなりだったから、願い事なんてできなかった。

田舎でも見れなかった流れ星。一瞬だったけれど、夜空に白い線がずっと光って、とても素敵だった。

願い事はできなかったけど、かなり、嬉しい気持ちになった。

家に戻り、自室の椅子に腰掛ける。

「はぁ」

またしても出てきたため息。でも、さっきまでのため息とはだいぶ違うものになったような気がした。

（後書き）

ここまで読んでくださり、ありがとうございました。

こんなへたっぴな文章ですが、ぜひ感想、評価なども教えてください！

霜月

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8500c/>

ため息

2010年10月11日02時11分発行